

	事業名等	内容	実績	評価
理解促進	1 認知症サポーター養成講座	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職場において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを多世代にわたり養成した。 開催分野拡大のため、教職員やPTAへ開催チラシを配布した。	・開催分野及び回数・受講者数 延べ 1,881人 内訳：住民(9回404人)、企業・職域(1回18人)、幼児(12園231人)、小学生(10校436人)、中学生(6校672人)、行政(2回63人)、介護サービス(1回57人) ・新規受講者数 1,632人 ・教職員向け及びPTA向け開催案内チラシを作成し、小中学校の認知症サポーター養成講座開催時に学校へ配布した。	認知症サポーター養成講座は全受講者中、7割が幼児・小中学生である。成人の世代の受講者数が増えるよう、学校関係者や学童の保護者等、つながりのある関係機関への講座の周知等を継続し、成人の世代への講座の拡大を目指したい。
	2 図書館との連携事業 普及/啓発イベント期間中に認知症コーナーの設置、敬老の日特別おはなし会、多世代交流カフェの実施	本庄市立図書館及び児玉分館に、認知症に関する書籍コーナーを設置。また、本庄市立図書館において小学生の親子を対象に、敬老の日特別おはなし会において、高齢者や認知症に関する絵本の読み聞かせを行ったほか、多世代交流カフェを実施した。	・おはなし会来場者数 22人(内訳：子ども17人、大人5人) ・9月の1か月間、大人及び児童それぞれに特集コーナーを設置。	おはなし会は子どもの参加者数が前年度より伸びており、継続を検討する。 認知症に関する普及/啓発イベントは、総来場者数が前年度より減っており、多世代の来場が望めるよう、開催日程や会場について、休祝日に実施すること等を検討していく。
	3 普及/啓発イベント オレンジウィークの開催(講演会や認知症の本人のメッセージの掲示等)	9月の世界アルツハイマー月間に、普及/啓発イベントを開催した。 認知症に関するパネルや認知症の人の創作品、認知症の人や家族・介護者の声の展示、相談会、講演会や認知症カフェなどを行った。また、子育て支援センターや学童保育所へ読み聞かせにおいて認知症に関する図書活用を依頼した。	・実施期間 令和6年9月17日～21日(オレンジドレスアップは9月2日～24日) ・来場者数 展示343人、講演会88人、カフェ52人、映画200人、体験31人、骨・血管年齢測定92人、相談4件、クイズラリー226人	広報特集記事掲載については、幅広い年代への周知/啓発を継続するため、今後も実施していく。
	4 広報ほんじょう 認知症に関する特集記事	「認知症になってもお互い様～」オレンジサポーターへのインタビューを通して、お互い様の関係・地域づくりについて発信した。	広報8月号にサポーターのインタビュー記事を中心としたチームオレンジに関する記事を掲載した。	
相談先の周知	1 地域包括支援センター、病院等の周知	地域包括支援センター、認知症サポート医、かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者の名簿、認知症疾患医療センターをホームページ上に公開。また認知症ケアパスの配布・活用により相談先を周知した。		認知症ケアパスについて認知症地域支援推進員がサロンやオレンジカフェ等で配布し周知を図った。今後も継続する。
早期発見・早期対応・医療や介護	1 認知症初期集中支援事業	認知症の人や家族に早期に関わり早期対応するため、認知症初期集中支援チームを配置している。今年度適用となった事例はあったが事態急変により支援にはつながらなかった。 3月に検討委員会を開催し、事例検討を通して地域の早期診断・対応について検討した。	・初期集中支援チーム 支援事例なし ・検討委員会 令和7年3月25日開催	認知症初期集中支援チームの実際の活動はなかったが、事例の検証を行った。相談があった際に、顔が見える関係が築けていて、地域包括支援センターとチーム員間における情報連携が円滑に進むよう、事業に関する協議の場を設けていく。
	2 認知症ケアパスの作成・普及	高齢者便利ガイド内に認知症ケアパスを掲載し、市民及び民生委員へ配布し周知を図った。		認知症ケアに関する研修会参加者より、認知症ケアに関する学びが深まり、また同業者間で話ができる時間が有意義であり、継続的な開催を望む声があった。 今後もグループホーム情報交換会等を通じ、認知症対応力向上に向けた研修等企画を協議していく。
	3 認知症対応力向上研修 介護施設職員へのヒアリングによるニーズ把握、研修会の開催	グループホーム情報交換会において、職員の人材育成や緊急時対応やBCP等の課題及びニーズを把握したため、介護職員を対象とした認知症ケアに関する研修会を開催した	・開催回数 2回(令和6年12月13日、令和7年1月17日) ・参加者数 実人数80人、延べ人数106人	キャラバン・メイトの勉強会や定例会を通して、キャラバン・メイト間の交流と研鑽の機会となった。今後も会が継続し、定例会や研修等の機会への参加者が増えるよう後方支援を継続していく。
	4 本庄市キャラバン・メイトの会後方支援	メイトの会の協力を得て、認知症サポーター養成講座イベント等の開催をした。 メイトの会への出席を通して現状把握や関係づくり、運営の後方支援を行った。 テキスト変更に伴い、伝えるポイント等に関する勉強会をメイトの会参加のきっかけづくりの目的と併せて実施した。	・キャラバン・メイトの会 6回開催 ・メイト勉強会 1回開催(令和6年8月9日)、参加者数10人	認知症ケア相談室は相談件数が伸び悩んでおり、市民だけでなく、地域活動に従事している方々にも知ってもらい、相談先として地域の家族介護者等へ広めてもらいたいため、一層の周知を図る。
	5 認知症ケア相談室	認知症対応型共同生活介護事業所に、専門的知識を活かした介護方法等の相談窓口を設置し、地域包括支援センター等関係機関と連携した相談対応を行った。	・委託先事業所：5か所 ・相談件数：3件 ・相談者内訳：家族3件	認知症初期スクリーニングシステムについては、認知症イベントやオレンジカフェでの周知を図った。今後も市民へ周知を図るため、広報誌等でも周知を図る。
	6 認知症個別相談会	認知症に関する市民からの相談に対応するため、地域包括支援センターに委託して、オレンジカフェと同日開催した。	・相談件数：8件	グループホーム情報交換会では、情報交換に加えて、認知症ケアに関する研修について提案があり、認知症対応力向上研修の実施に至った。研修会では、参加者同士で名刺交換等の交流も図られ、関係者間のネットワーク形成にもつながったと思われる。
	7 認知症初期スクリーニングシステム	認知症初期スクリーニングシステムの案内を、介護保険被保険者証送付時に同封したほか、地域包括支援センターの相談や認知症に関する普及/啓発イベントにてチェック表を配布し、併せて相談先の周知を行った。	・利用者数：1,860人	
	8 グループホーム情報交換会情報交換会	市内の認知症対応型共同生活介護事業所の情報交換会を開催して横のつながりを支援するとともに、地域のネットワーク形成を図った。	・開催回数 3回(令和6年7月17日、11月19日、令和7年3月13日) ・参加事業所数10箇所、参加延べ人数22人	

事業名等		内容	実績	評価
介護者への負担軽減の促進	1 認知症カフェ(オレンジカフェ)	認知症の人や家族、地域住民や専門職が集う認知症カフェを市内9箇所(地域包括支援センター7箇所、任意団体主体2箇所)で実施した。任意団体については、地域包括支援センターが支援を行った。	・開催箇所・参加者数 地域包括支援センター(委託事業):開催回数72回、参加延べ人数1,000人、ボランティア延べ143人、認知症の本人や家族の参加者延べ62人 ・任意団体(補助事業):2か所	オレンジカフェへ継続的に参加する方や、協力者が増えている。今後も新規の参加者や協力者が増えるよう、様々な場面で周知を図る。
	2 認知症家族の会本庄	認知症の人を介護する・していた家族が集う家族の会を開催した。	・開催回数 11回 ・参加者延べ人数25人 うち新規参加者 3人	次年度にお花見を持ち越し越したため、実施回数が11回となった。今後も新規参加者が増えるよう、介護支援専門員等へ定期的に周知を図り、また継続参加者へは認知症地域支援推進員より、個別支援も継続していく。 お花見イベントでは参加者家族の本人参加も促した。雨天でイベントは見合わせになったが、今後も本人参加を促せるようなイベント等の企画を考えていく。
若年性認知症の人への支援の検討	1 相談先の周知	ホームページにて、若年性認知症を含めた相談窓口を周知した。 また、令和4年の介護保険認定審査会における医師意見書から、若年性認知症について把握した。		若年性認知症については、相談窓口の周知を継続する。 令和4年度の要介護認定結果から若年性認知症の方の数について把握したが、実態の分析までには至らなかった。実態の把握は今後も継続し、相談支援のニーズの把握につながるような分析方法を検討していく。
地域支援体制の強化	1 ステップアップ講座	認知症サポーター及び既にボランティア登録済の認知症サポーターを対象に、認知症に関する理解を更に深めチームオレンジとして地域で活動するため講座を開催し、併せてチームオレンジのボランティア登録の説明を行った。	・開催日 3日間(令和6年10月15日、22日、29日) ・参加者数 21人、延べ48人(うち、オレンジサポーター5人、延べ12人) ・チームオレンジ登録者数 6人R7、3月末総数47人)	ステップアップ講座にはチームオレンジサポーターも参加があり、研鑽の機会となった。6名のチームオレンジサポーターの新規登録があり、年度内の定例会やオレンジカフェへの参加につながった。次年度も継続して講座を実施し地域活動へつなげていく。
	2 地域づくり推進事業(チームオレンジほんじょう)	月1回定例会を開催し、居心地の良い場所づくりや認知症に関する普及・啓発等のため、イベントでの周知活動やオレンジカフェ等を開催した。	・定例会 12回 ・平均参加者数 8人 ・ほんじょう市への出店(令和7年1月26日)、協力者10人 ・オレンジカフェの開催(令和6年5月2日、7月4日)	SOS模擬訓練をステップアップ講座と、自治会主催で実施できた。自治会では地域の商店等も協力をいただいた。書類や記録を整理し実施マニュアル等も作成した。今後も地縁団体等での実施にもつなげたいため、認知症サポーター養成講座の開催等、地縁団体等と関わった際などに周知を図り実施につなげる。
	3 SOS模擬訓練	認知症への理解を深め、地域の支えあい実践力向上のため、小島南自治会をモデル地域とし、SOS模擬訓練を実施した。 また、認知症ステップアップ講座の受講者及びオレンジサポーターを対象に実施した。	・参加者数(小島南自治会):28人 ・協力者:本庄警察署生活安全課、キャラバン・メイト、地域包括支援センター職員 ・【再掲】ステップアップ講座 参加者数13人、チームオレンジサポーター5人	チームオレンジほんじょうでは、認知症の方への個別支援が増え、またオレンジカフェへの開催など活動の幅が広がっている。本人参加を促したケースはあったが実際はなかったため、次年度も継続して周知に努める。
その他		認知症地域支援・ケア向上事業検討会議を開催し、認知症地域支援推進員と市とでケア向上の取組について検討を行った。	・認知症地域支援・ケア向上事業検討会議:12回	12回の定例会議に加え、認知症事業の打ち合わせ会議も複数回実施した。認知症事業の円滑な遂行と連携強化のため、適宜会議日程を調整する。